あぜ道巡回で生育状況を確認

営農企画課

ＪＡでは７月19日から３日間に渡って、管内の各圃場であぜ道巡回指導を行いました。稲作りに最も大事な穂肥期を迎えるに当たり、営農指導員が現在の稲作の状況と今後の管理について生産者に説明しました。

このうち、能代市山谷地区では生産者約15人が参加。営農指導員が今年の生育状況について、草丈は短く、茎数は少なめ、葉色は濃い生育状況となっていることに触れ「圃場の状況をよく確認し適正な肥培管理を行ってもらいたい。また、いもち病やカメムシ類の病害虫が発生してきているので防除を徹底してもらいたい」と生産者に呼び掛けました。

▲スケール（生育調査棒）を使って説明する担当者

▲１頭１頭厳しく審査されました

成牛品評会を開催

畜産部会

第45回ＪＡあきた白神成牛品評会が７月７日、藤里町大野岱放牧場で開かれました。品評会には２歳未満の部に７頭、２歳以上～５歳未満の部に11頭、５歳以上～８歳未満の部に８頭、８歳以上の部に11頭の計37頭が出陳しました。

全国和牛登録協会秋田県支部の加藤晃氏ら４人が審査員となり、資質や品位・均称、発育状況などを審査し、桂田安太郎さん（藤里町）の「やすいとはな」が最高賞の壱等賞１席に輝きました。加藤晃事務局長は「生産者の努力で、高品質な成牛が生産されている。今後も飼養技術向上を目指し、この牛を大事に育ててもらいたい」と話しました。

出荷規格の確認と防除の徹底を呼び掛ける

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）は７月３日、トマトの収穫を前に営農部会議室にて目揃会を開催し、生育状況や出荷規格について確認しました。

目揃会には生産者やＪＡ、山本地域振興局普及課職員など約15人が参加。はじめにトマト部門の石川博孝さんが「今年は低温の影響で発育が遅れているように思われる。ＪＡや市場からの指導を得て、万全の体制で出荷に向けていきたい」とあいさつ。また、普及課職員からは「梅雨入りし、湿度の高い日が続くと、葉かび病が増えてくることが予想される。また害虫の発生も多い見込みなので防除を徹底してもらいたい」と生産者に呼び掛けた。

▲規格を確認する生産者

▲販売額１億円突破を目指します

販売額１億円の達成を目指す

みょうが部会

特産品である「白神みょうが」の収穫・出荷を目前に控え、みょうが部会（大高英樹部会長）は、７月28日に能代市工業団地で目揃会を開催しました。

生産者やＪＡ、市場関係者合わせて約50人が参加した目揃会では、生育状況や今後の管理、市場情勢などについて説明が行われました。大高部会長は「ここ数年干ばつ傾向でみょうがの収量が少なかったが、今年は雨も降ったので順調にみょうがも生育していると思う」と話し、今後の収穫に向けて期待を寄せていました。今年度は、販売数量84.5ｔ、販売金額で１億600万円を目標としています。

蟹座（6・22～7・22） 人との交流から幸運が。人間関係を広げるべく行動してみて。付き合ったことのないタイプとも親しくなれそう